

家族への手紙コンクール入賞者



日頃、面と向かうとなかなかうまく伝えられない思いや感謝の気持ちなどがつづられた手紙が245通寄せられ、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。

生涯学習課（☎62-1036）

最優秀賞 1人

「僕からの挑戦状」

二宮翔琥（刈谷東中3年）

優秀賞 10人

「じいちゃんへ」

中川巧都（双葉小2年）

「大すきなあいちゃんへ」

伊與田華（朝日小3年）

「畑のまほつかいのおばあちゃん」

加藤珠那（富士松南小4年）

「やさしいおじいちゃんへ」

横田隼人（衣浦小5年）

「いつも忙しいお母さんへ」

石川莉緒奈（富士松東小6年）

「おばあちゃんと私の宝物」

三浦梨来（刈谷東中3年）

「支えてくれた家族へ」

小林友紀（株シエテクト高等学園）

「育ててくれた祖父母へ」

齋藤大智（株シエテクト高等学園）

「日々の支え」

田中知輝（株シエテクト高等学園）

「お弁当」

吉村陸玖（株シエテクト高等学園）

最優秀賞

「僕からの挑戦状」

二宮翔琥
（このみやしょうこ）

いつだったかな。ちょうどコロナが流行し始めた頃に、僕はおばあちゃんにおじいちゃんのお秘密を聞いたんだ。何かって？それは、おじいちゃんが中学三年のとき、次男だからという理由で高校に行く必要はないと親に言われたことだよ。しかも親に進学はダメだ、学費は一切出さないって言われてそのまま言いなりになったのではなくて、おじいちゃん自分ですべて自衛隊の高校に入ったと聞いたとき、なんてすごい人なんだと思った。

コロナでなかなかおじいちゃんの家に行けなくなってしまうって、直接話すことも減ってしまったけれど、おじいちゃんはどうなときでも元気で、そんな理不尽なことが、過去にあったなんて、全く見せてこないよね。しかも、辛かったということだけじゃなくて、頑張ったことも言ってくれないんだよ。あくまでも自分にとっては、ごくごく当たり前のことをしただけ、そんな感じなのが、おじいちゃんの言動からは見えてくるんだ。ところで、僕もやっと十五歳になったよ。

そう、おじいちゃんが100%自力で高校に行った年齢だよ。じゃあ僕はおじいちゃんと同じようにしっかりしているか、というとちょっと違う気がする。やっぱりさ、僕自身はすぐ恵まれているんだ。でも、その環境の基礎を作ってくれた一人は、おじいちゃんだと僕は思っている。あのときにおじいちゃんが頑張ってくれたから、だから僕は今の環境にいられると思うんだ。本当にありがとう。

でもね、正直言っちゃえばなしな感じなのもちょっと悔しいから、これからも努力して、おじいちゃんに少しでも近付こうと思っている。いや、違うな。いつになるかは分からないけれど、おじいちゃんのこと、抜かすから。そう、これは僕からの挑戦状だよ。「おお、翔君。やれるもんならやってみろ。」という感じで、僕からの挑戦状を受け取ってくれると、すごく嬉しいな。